



陳言コラム-35

中国雑談

東北振興と撤退していく投資

高速鉄道ができて、東北もずいぶん近くなってきた。

それでも車で東北を走って見た。南の都市と違って、高速から降りると、だいたい錆びた旧市街であり、すべての都市では市役所ビルだけは高く大きい。またその前の広場も広々としているが、ところどころではでこぼこで歩きにくい。

この頃、東北の振興が再度図られるようになり、中央政府がくれたプレゼント第一弾は、まさにお宝ともいべき巨額投資である。さる8月22日、発展改革委員会が「東北地域など旧工業基地の振興の推進の3年連続実施計画（2016～2018）」を発表し、年度別の137項目の重点業務と127の重大プロジェクト及び、総投資額規模は約1兆6000億元を予定していると明らかにした。

しかし、それを呼び水にして東北への投資が殺到するという現象は見ない。ネット上の世論を見ると、人々は「この新たな東北振興策は、果たして見込みがあるのか」という疑問ばかり目立つ。

矛盾は何とんでもなく東北の経済発展の立ち遅れであろう。2016年上半期の経済データによると、東北三省は吉林が少しましな以外、黒龍江、遼寧はどちらもかんばしくなく、特に遼寧はマイナス1%という成長率で目も当てられない。

実際にはここ数年、東北地域全体が経済的に一貫して振るわず、成長率、固定資産投資（設備投資）、工業付加価値、外国企業の直接投資のどれをとっても大幅な下落が見られる。そのほか、国有企業の苦境、債務不履行（デフォルト）、財政圧力もある。



2014年の東北の重工業の割合は依然として78%を維持しており、全国の70%未満という平均レベルより高く、特に黒龍江省と遼寧省の重工業の比重はそれぞれ80%と79%と高く、かつ鉄鋼、石炭、石油などの生産能力過剰業界に集中している。

中央企業や国有企業の割合が高いため、私営経済の発展が滞っている。黒龍江省の2014年の国有および国有持株企業の付加価値が工業付加価値の中に占める割合は、依然として67.8%という高さで、全国の20%未満という平均レベルをはるかに上回っている。

中国の七大地域を対象としたある商業経営環境調査によると、2001～2011年の間に東北で投資し、あるいは実際経営を行ったことのある地方の企業の中で、66.4%の企業が「すでに東北地区での経営を停止」あるいは「今後5年以内に離れる予定である」と回答している。また、これらの企業の中で51.3%の企業が東北地区で遭遇した最大の発展阻害力は、「現地政府およびその関連政策」と答えていて、その数値は華北が40.1%、西北が39.9%、西南が38.6%、華中が29.7%、華東が18.9%、華南が17.6%であった。

遼寧錦州市役所前の広場では、東北振興は並大抵のことではないなと思っているところで、筆者がつまずいてしまい、膝が凍っている床にぶつかり、痛かった。